

解決 トラブルシューティング

😊 今なら間に合う！ 😞 間に合わない？

(タキイ種苗開発部)

野菜は一つとして同じ生育をたどるものはありません。低温・高温、乾燥・過湿、曇天・日焼け、多肥・肥切れetc、一度バランスを崩した野菜は、トラブルとなってその症状を現

します。そこから対応できることもあれば、もはや手遅れな場合もあります。このシリーズでは回復可能な事例はその対処例を、無理な場合は次回の対策などを紹介します。

本号のテーマ ホウレンソウの葉の黄化を予防する対策

😊 対応可能な処理
😞 対応不可能

●ケース: 下葉が黄化して生育が悪くなってしまった。

対策



😊 品種選びや排水を促進する畝づくりで予防することができます。

😊 初期の黄化症状であれば、中耕や施肥で株の回復が可能です。

😞 黄化症状が進むと生育が停滞したり、下葉から枯死したりするので、その後の収穫遅れや収量低下を招いてしまいます。

◎原因

ホウレンソウの黄化症状

秋冬どりの露地栽培では、台風やゲリラ的な豪雨により下葉から黄化が目立つことがあります。これは、圃場の過湿による根傷みにより、肥料の吸収が阻害されることに要因があります。

◎対処方法

①黄化症状が発生し始めたら：本葉4枚程度までは、早めに条間の中耕で表面を乾かし、根に酸素が入るようにします。そして液肥などの葉面散布剤などで株を元気にします。

②根の張りが回復し、元気になってきたら：速効性の肥料(粒状)を条間に施用して根に効かせます。

◎予防方法

①土づくりで予防する：完熟堆肥の施用や緑肥のすき込みなどで、排水・通気性のよい土づくりを心掛けます。また、畝づくりの際には、深耕、高

畝、明渠^{めいきよ}などでしっかり排水が図れるようにします。



↑台風など気象による影響からの早期回復を果たす、葉面散布肥料「ヨーゲンアクセル」。



↑根の細根・発根を促進して根張りを促す「発根力」。



↑過湿を防ぐため土壌を深耕し、高畝にして排水性を考えた畝づくりを。

②品種の選び方：初期生育から根の張りが安定して湿害を受けにくい品種が適します。また、長期栽培でも株が老化しにくく、青果として品質が維持しやすい品種を選択しましょう。「弁天丸」は根の張りが安定して、厳寒期どりなど長期の栽培でも濃緑で品質が安定しやすい特性がありま

す。また、2015年新発売の「牛若丸」は中早生種ですが、初期生育が旺盛で株張りにすぐれる特性があります。いずれの品種も水田裏作の秋冬どり栽培に適しています。



↑「弁天丸」は厳寒期でも在圃性・耐寒性の高い品種。



↑葉柄が太く株張りがよい「牛若丸」。

「トラブルシューティング」は、今回が最終回で今後は不定期での掲載となります。このコーナーでとり上げて欲しい質問を以下まで募集いたします。
応募先 〒600-8686 京都市下京区梅小路通猪熊東入 タキイ種苗株式会社 広報出版部 トラブルシューティング係宛
※質問に対して個別にお応えすることはできません。